

「助け合い」の気持ちを 忘れずに

新型コロナウイルスの感染の拡大による長期の休校措置が続き、現在も様々な制限下での教育活動が続いています。この間、感染状況はなかなか落ち着かず、さらには、全国的に災害級の猛暑にも悩まされ続け、まだまだ残暑も厳しいままです。

今後は本格的な台風シーズンを迎えようとしています。学校では、コロナ禍での避難所運営という難しい局面になる事を想定し、地域の避難所運営委員の方々と話し合いを進めなければならない状況でもあり、緊張状態が続いております。

6月からの新学期スタートではありましたが、なんとか、一学期後半を迎え、来週には学期末考査となります。予定していた学校行事や生徒会活動、全校そろっての顔合わせや集会等も次々と延期や中止に追い込まれていますが、そのような中でも生徒達は、しっかりとした生活を送っています。

7月末～夏季休業中には、部活動としての「3年生の活動」は、ほぼ終了しましたが、まだいくつかの部活動は活動を続けていたり、高校進学や将来を見据えての取り組みの一環として、下級生と一緒に頑張っていたりする生徒もいます。とても素晴らしいと思います。

保護者の皆さまにおかれましては、6月以降、検温ボランティアや放課後の消毒作業に数多くの方々のご協力を継続いただいておりますことに、心より感謝申し上げます。

そして、土、日曜日の貴重な休日、しかも暑さが厳しい中を、部活動での練習や試合、発表会の合間に消毒のお手伝いをさせていただいたり、生徒の健康チェックをさせていただいたりしている皆さまのお姿を数多く拝見いたします。重ねて感謝申し上げます。

先日、3年生の生徒達が他校で実施した練習試合で後輩のお手伝いをしている姿に接しました。保護者の方も一緒に引率していただいております。本当に有り難く感じております。

しかしながら、感染状況も収束が見えていない状況でもあり、残暑も厳しく、保護者の方々の体調等も心配されるところです。皆さまにおかれましても、十分な熱中症対策をお取りいただき、感染症にも互いに留意しながら、くれぐれも体調を崩されないように、ご自愛くださいますようお願い申し上げます。

今年度は、生徒たちも私たち教職員にとっても様々な意味において大きな試練の年となっております。

先日、「修学旅行の中止」について、桐澤武久学年主任から生徒達に伝え、第3学年の保護者の方々に文書で周知させていただきました。中止の決定までに、様々なプロセスがありました。本校では、第3学年スタッフの判断も速く、昨年度2月末には、様々な場面を想定しつつ、5月に予定していた旅行は、10月に変更することを内々で話し合いをしておりました。当時はまだ、「この感染状況は10月には治まっているだろう」という予想でした。しかし、その後も感染状況は悪化の一途を辿り、今度は、旅行先や内容変更も考えざるをえなくなりました。そのため、東京方面ではなく、北関東方面(栃木県)も視野に入れ始めました。この間の3学年スタッフの動きも迅速であり、何とか実施の方向性を探り、いち早く旅行業者と折衝してまいりました。しかし、

一時は小康状態になったかに見えた感染状況は、再び悪化し、今では「第2波」と結論づけられほどの状態になってしまったのはご承知のとおりです。

それでも、桐澤学年主任が中心となり、「生徒と保護者の方々の声は是非、お聞きしておかなければならない。」という強い考えのもと、7月下旬に実施の可否についてのご意見を伺うアンケートを実施いたしました。そして生徒、保護者の方々から本当に数多くの回答、ご意見をいただきました。結局は、アンケート結果、検討委員会での話し合い、これまでの状況、文科省や厚生労働省からの通知等を照らし合わせながら、学校として中止を判断いたしました。

この決定を生徒に告げるにあたり、第3学年のスタッフは、悩みに悩みました。特に桐澤学年主任は、どのように生徒に話そうかと、毎日、原稿を書き換えながら、その日を迎えました。ある時、校長室で「生徒に話すのは気が重いですが、私のやらなければならない事です。」とため息まじりに話されていました。中止の決定を生徒に告げることは大変辛いことでした。

しかし、何より生徒達が一番悔しい気持ちだったと思います。アンケートの自由記述には「行きたいけど、無理しなくていいです。」「私達のためにこんなに多くの案を考えてくれてありがとうございます。」「行けなくても大丈夫です。」「行きたいけど、今の状況では・・・、」等の回答がとても多くありました。逆に「感染症対策をして、みんなで行きたい。」という素直な意見も多数ありました。いずれも、しっかりとした意志表示でしたが、苦しい回答だったと想います。

保護者の方々のご意見も、「親子で考える機会を与您いただきありがとうございます。」「色々考えてくれている先生方の姿を見て、子ども達が成長してほしいと思います。」等、私達への激励も数多くありました。

今はまだコロナ禍で、国や自治体からの通知や各種ガイドラインに則って、教育活動を実施している状況であり、生徒達も保護者の方々も教職員も、それぞれがそれぞれの立場で我慢を強いられているのが現状です。特に生徒達は、我慢の連続です。「厳しい環境の中で人は育つ」とも言われますが、この状況が、中学生にとって「必要な厳しい環境」だとは、どうしても思えません。だからといって、「みんな可哀想」だけでは終わらせてはいけないのだとも思います。とても難しい毎日です。

生徒も深く傷つき、「中止」や「延期」等をいつも宣告する大人の側もまた深く傷ついています。ご家庭でも保護者の方々がお子様を納得させるために、大変なストレスをかかえている事と思いますし、職場でのお立場や日々変化するこの状況で、困難な毎日を送っている事と思います。

すべてが昨年までのようには出来ていませんが、少しずつ、私たちも前に進もうと思っております。しかしながら前に進んでいく判断も、行政からの通知や指導等を読み解きつつ、学校の判断や決断も交えながらの日々です。そして、この未曾有の事態で、行政に携わっている方々も戸惑いながら、様々な批評や批判を受けながらの毎日と聞いております。

今、現在、心からの笑顔で生活している方は少ないと思います。何かに怯え、リスクを抱え、誰かから責められる事を恐れ、そして感染の恐怖に怯え、しかもどんなに注意していてもゼロリスクはないという状況での生活です。一体、いつまでこのような日々が続くのかと暗澹たる気持ちになります。

それでも、本校では、3年生の生徒達のアイディアで 国道沿いに横断幕を掲げました。そのテーマは「助け合い」です。疑心暗鬼になって互いを攻撃したり、責めたりせず、互いに思いやり、そして互いに助け合ったりしながら生活していく事が今は必要であり、大切な事なのだ皆で共有しながら生活したいと思えます。長町中学校は、このようなアイディアを出してくれたり、アンケートに真剣に答えてくれたりする生徒が数多くいて、保護者の皆さまの温かさや地域の方々のお声掛けがあり、9月を迎えました。

「助け合い」 心に刻み、誰も責められることなく、笑顔に戻っていききたいものです。